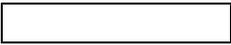


参 考 資 料

- 資料1 「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議」開催要項 22
- 資料2 「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議」委員名簿 23
- 資料3 「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議」開催経過 24
- 資料4 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」 25
(平成20年2月19日中央教育審議会答申)《「学習成果の評価」関係部分抜粋》
- 資料5 検定試験に関連する参考データ 26
- 資料6 「生涯学習に関する世論調査」について 30
(平成20年5月内閣府政府広報室実施)
- 資料7 旧文部科学省認定技能審査について 36
- 資料8 外部有識者等からのヒアリングの際に配付された資料(抜粋) . . 37

資料 1

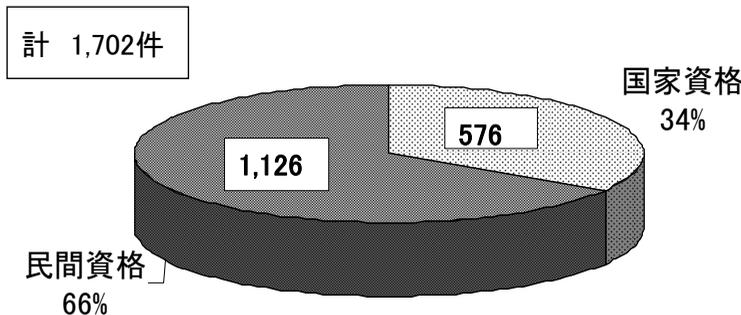


検定試験に関連する参考データ

(1) 検定試験の現状

国家資格と民間資格の数の割合

※ 国家資格には、公務員採用試験等も含む。
※ 自宅のPCで受検できるインターネット検定等は含まない。



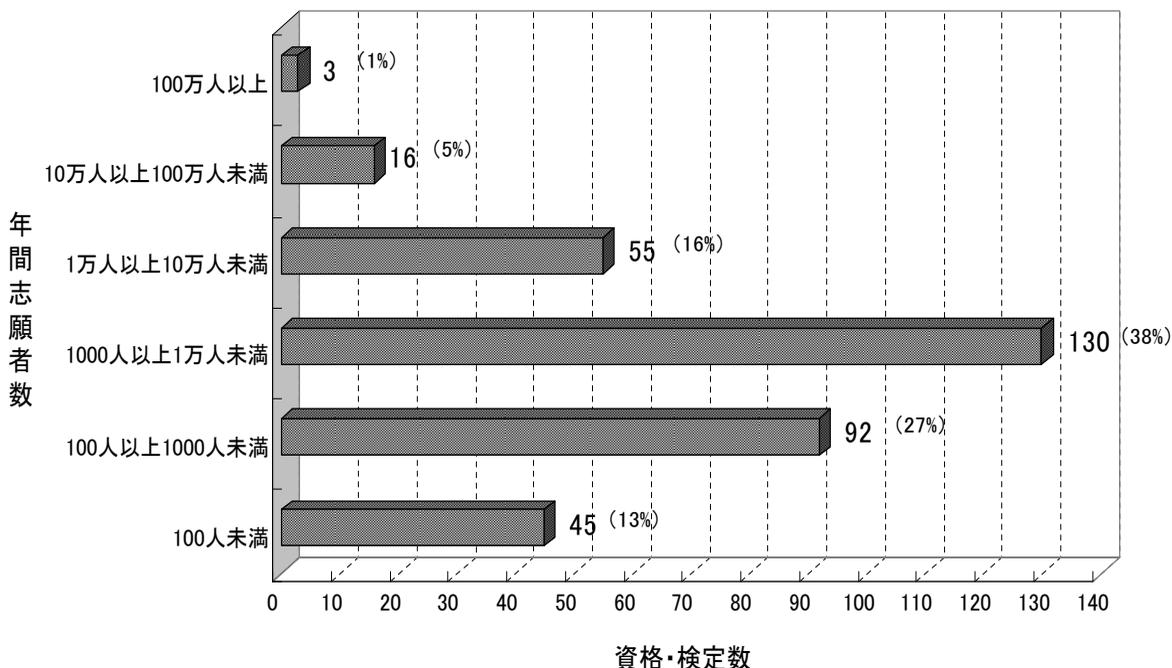
【参考資料】
 ・自由国民社「国家試験資格試験全書2009」
 ・日本文芸社「2009年度版 資格取り方・選び方オールガイド」
 ・中村一樹監修「すごい検定258」(テキスト発行)
 ・日本出版販売株式会社ホームページ「検定、受け付けてます」
 (<http://www.kentei-uketsuke.com/>)
 ・各省庁ホームページ
 ・各資格検定運営団体ホームページ

資料出所:「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議(第3回)」
 (平成20年7月2日(財)日本漢字能力検定協会ヒアリング資料)

(2) 検定試験の年間志願者数

民間資格・検定の年間志願者数分布

※ 年間志願者数または年間受検者数が判明した341の民間資格・検定を対象に調査。(志願者数が公表されていない資格・検定については、年間受検者数)
※ 年間志願者数または年間受検者数を上記6段階に分類し、それぞれの資格・検定数を集計。

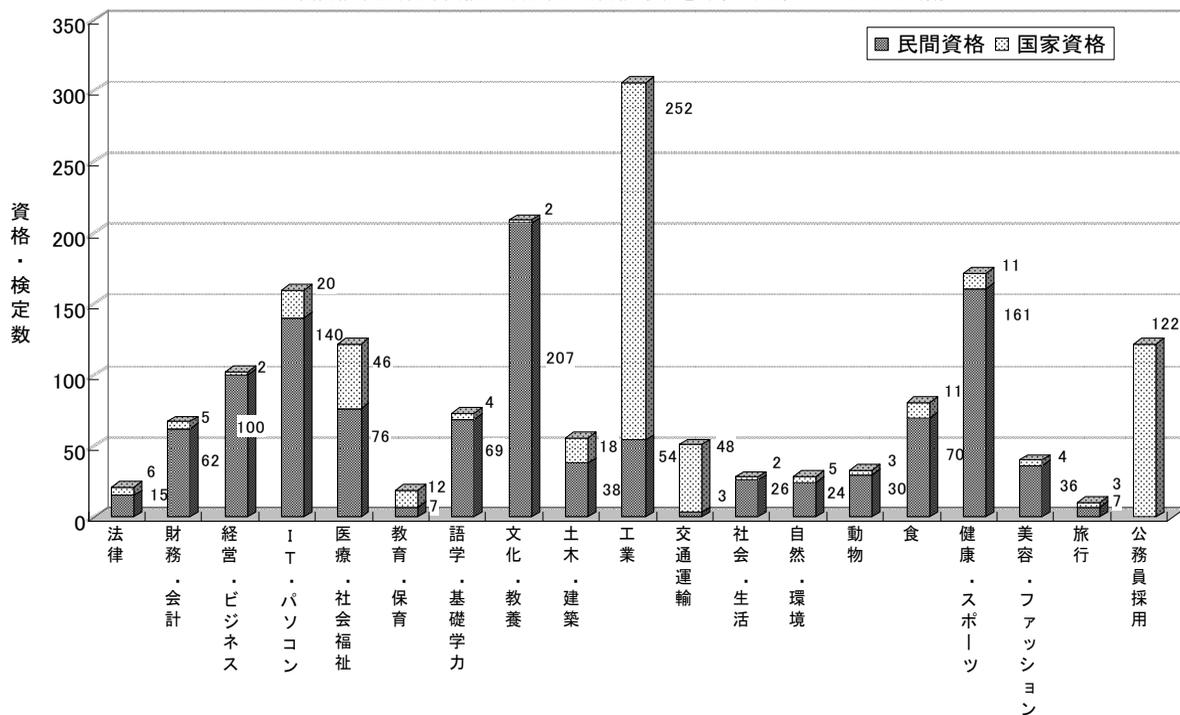


資料出所:「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議(第3回)」
 (平成20年7月2日(財)日本漢字能力検定協会ヒアリング資料)

(3) 検定試験の分野別状況

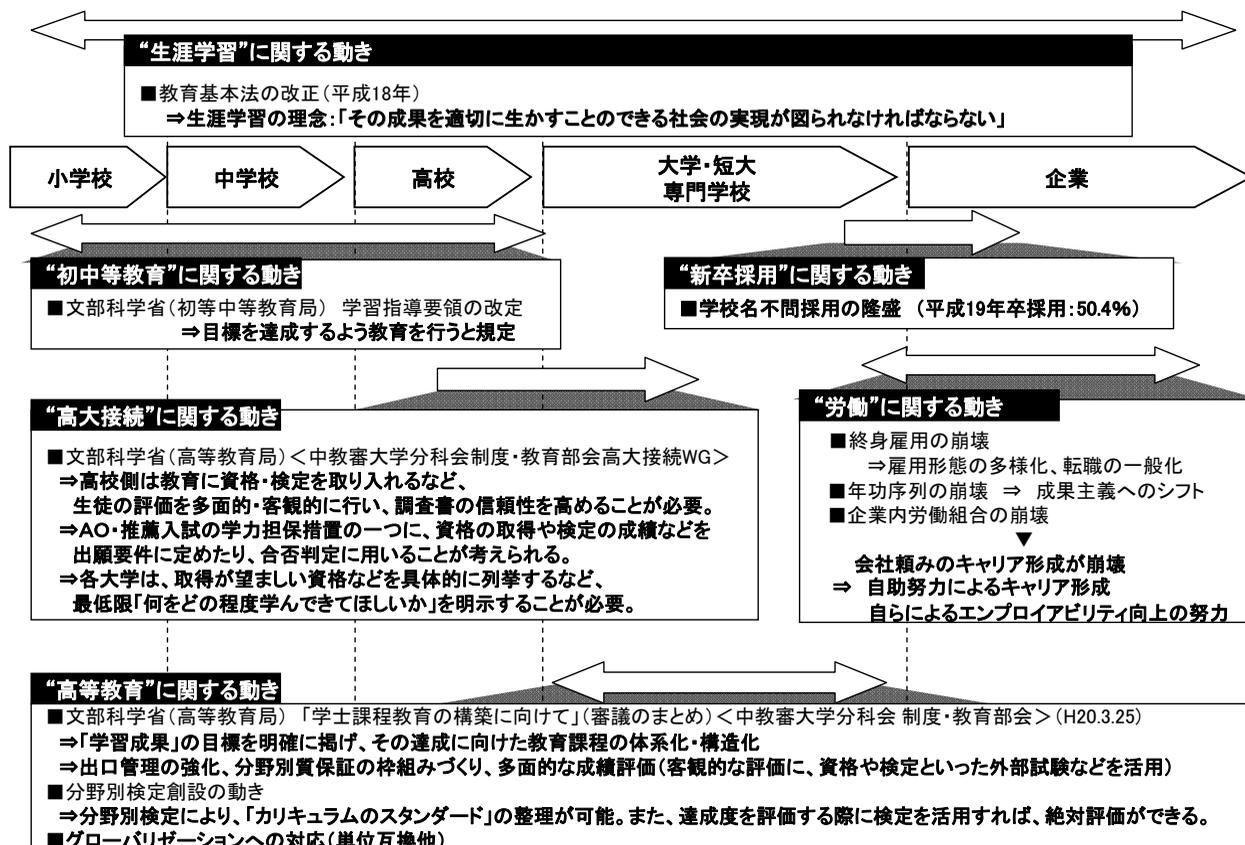
ジャンル別 資格・検定数

(※) 民間資格1,125、国家資格576、計1,701の資格・検定を対象に、19種のジャンルに分類。



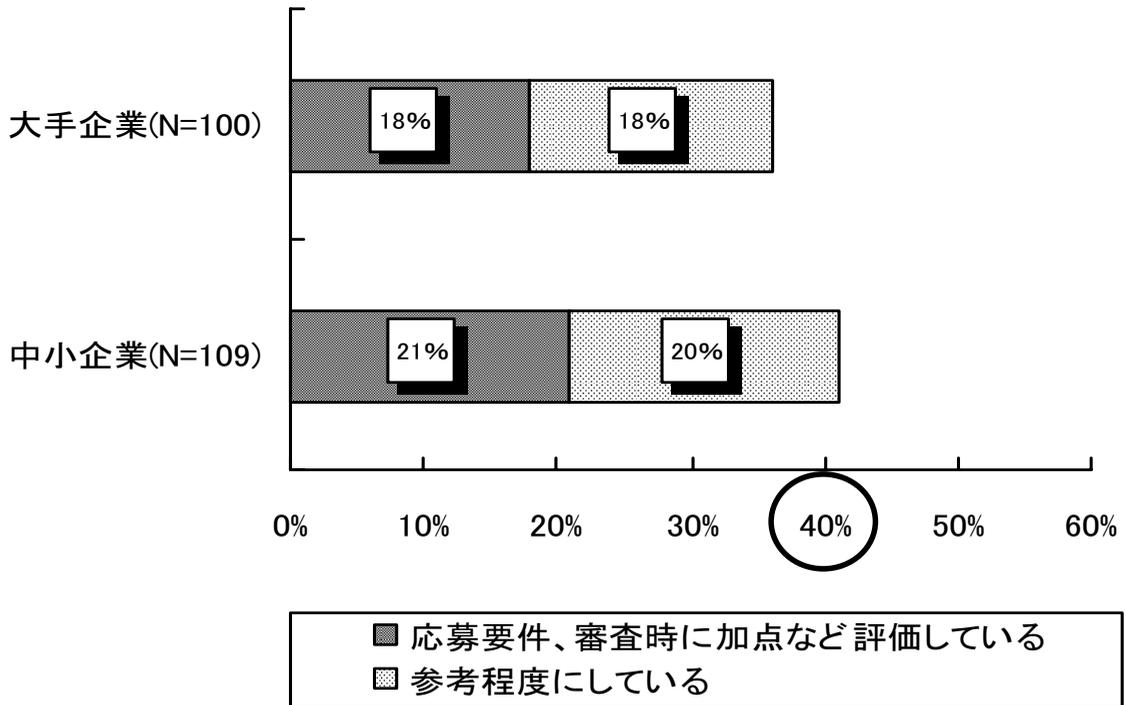
資料出所:「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議(第3回)」
(平成20年7月2日(財)日本漢字能力検定協会ヒアリング資料)

(4) 検定試験を取り巻く世の中の動き



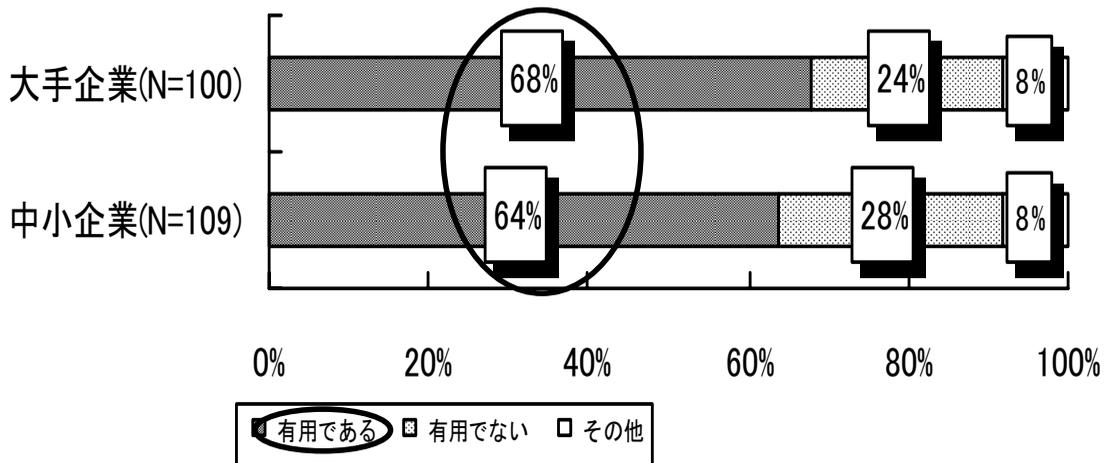
資料出所:「検定試験の評価の在り方に関する有識者会議(第3回)」
(平成20年7月2日(財)日本漢字能力検定協会ヒアリング資料)

(5) 社員採用時における検定試験の評価状況(調査対象:企業)



(平成19年11月 文部科学省調べ)

(6) 検定試験が証明する能力の明確化や第三者機関の保証についての有用性(調査対象:企業)



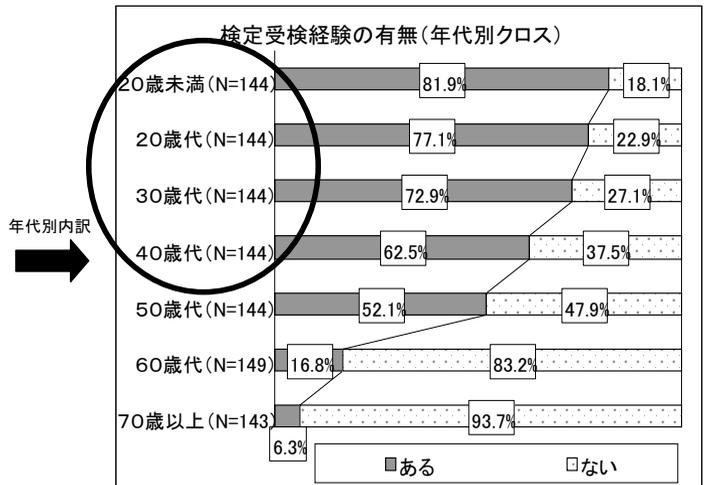
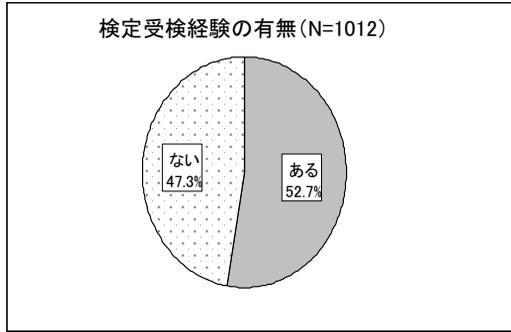
※それぞれの理由も可能な限り回答をいただく

○ 「有用である」と回答した主な理由

- ・現在ある同種の検定試験や新しい検定試験の内容が明確になれば、採用・人事管理において判断がしやすくなる。
- ・保証された検定試験の級等を有しているということは、ある程度その知識のレベルがあるということになるから。
- ・各種検定試験が信頼できるようになる。
- ・検定試験を取得するための努力の過程、前向きな姿勢をみてとれる。
- ・検定試験の取得は人物の経験を表すものであるから。

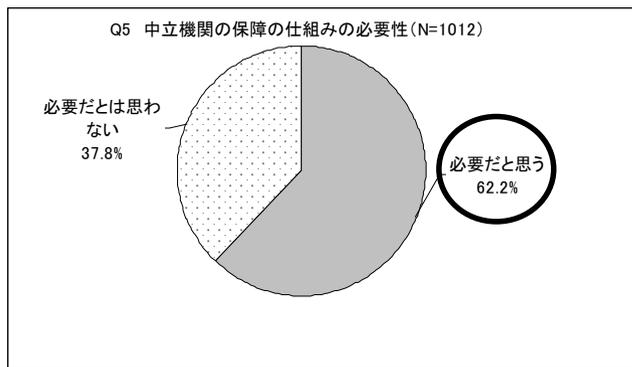
(平成19年11月 文部科学省調べ)

(7) 検定試験の受検経験(調査対象:個人)



(平成19年11月 文部科学省調べ)

(8) 検定試験の質を保証する中立機関の必要性(調査対象:個人)



- 「あったほうがよいと思う」とした回答者の主な理由**
- (○検定の価値・安心感が高まるという意見)
- ・社会的認知・信用があがる
 - ・レベルが保障され、権威や重みが増す
 - ・営利目的で簡単に取れる資格と区別できる
 - ・悪質業者の排除、詐欺・トラブル・不正の回避ができる
- (○検定の判断材料になるという趣旨の意見)
- ・判断基準になる
 - ・比較ができる
 - ・資格ごとの評価が明確になる
 - ・簡単明瞭な評価ができることを期待してる
 - ・しっかりとした評価基準として用いることができる

※それぞれの理由も可能な限り回答をいただく

(平成19年11月 文部科学省調べ)

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

1. *Introduction* (10/10)

2. *Methodology* (10/10)

3. *Results* (10/10)

4. *Discussion* (10/10)

5. *Conclusion* (10/10)

6. *References* (10/10)

7. *Appendix* (10/10)

[Redacted]

8. *Summary* (10/10)

9. *Final* (10/10)

10. *Final* (10/10)

11. *Final* (10/10)

12. *Final* (10/10)

13. *Final* (10/10)

14. *Final* (10/10)

15. *Final* (10/10)

16. *Final* (10/10)

17. *Final* (10/10)

図1.生涯学習の成果に対する社会的評価

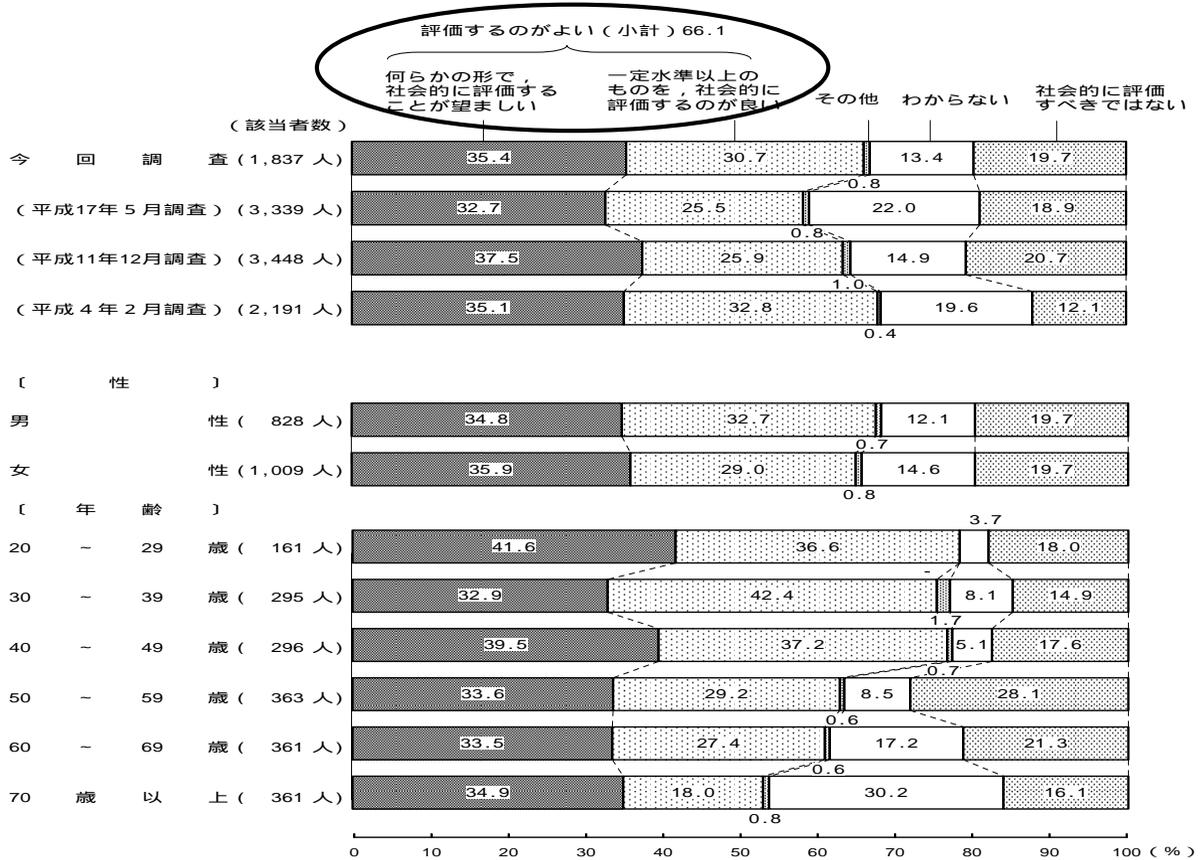
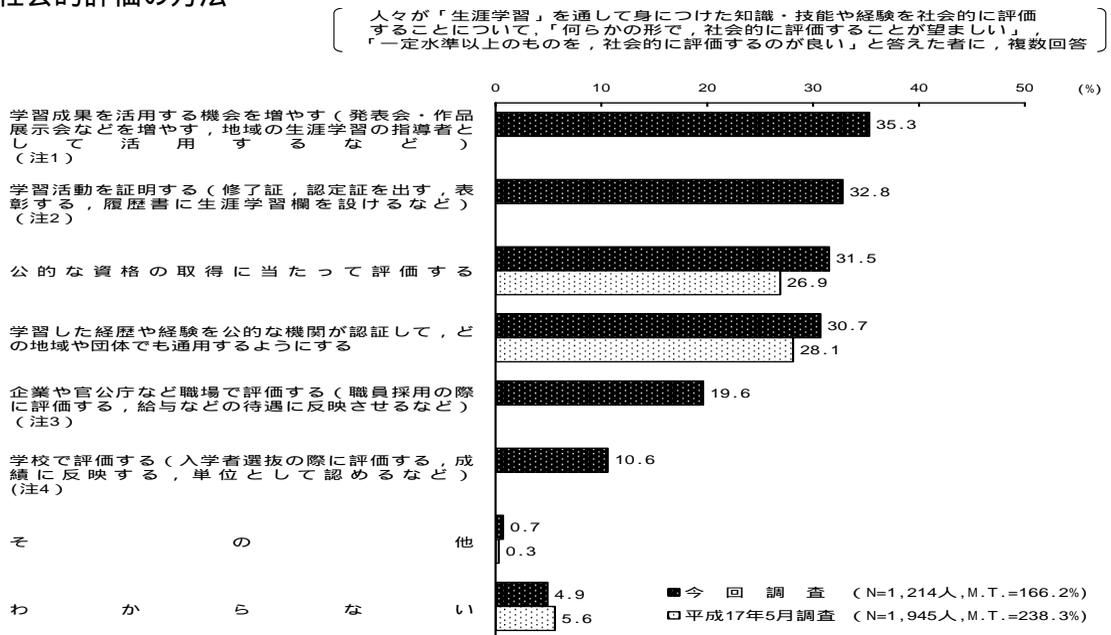


図2.社会的評価の方法



(注1) 平成17年5月調査では、「特に優れた人を、地域の生涯学習の指導者、講師として活用する」(29.3%)、「生涯学習の成果を発表する機会(発表会、作品展示会など)を増やす」(19.8%)となっている。

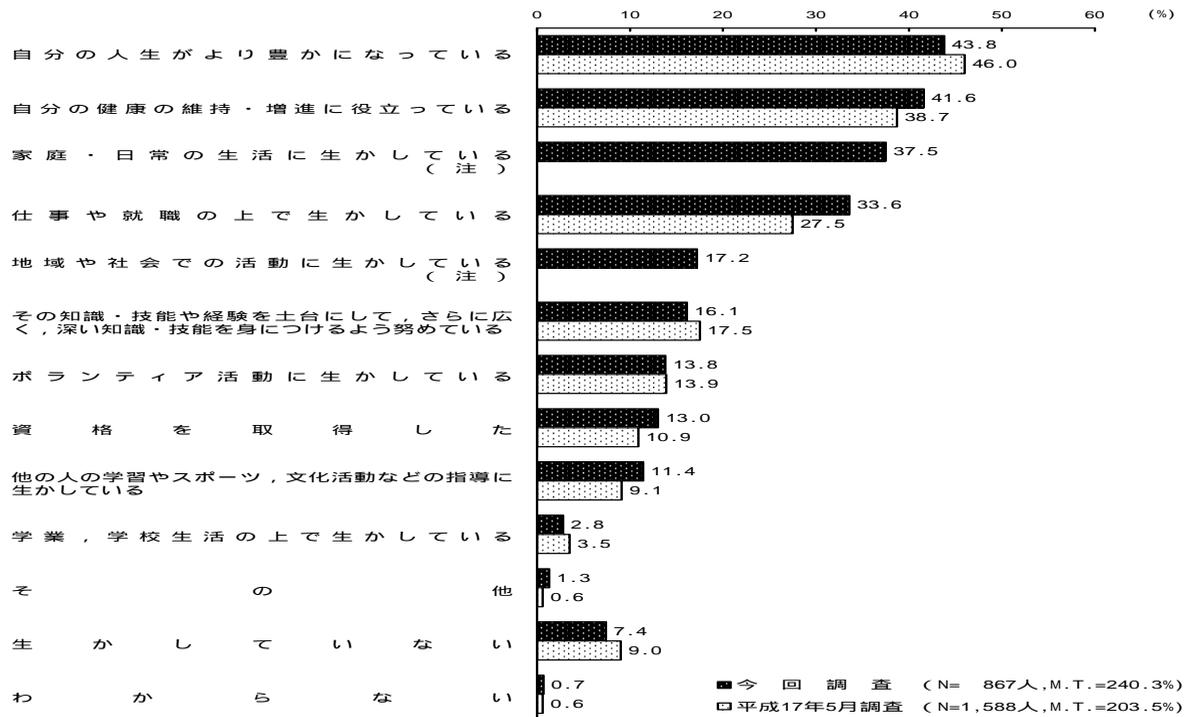
(注2) 平成17年5月調査では、「学習修了後に修了証、認定証などを出す」(30.0%)、「特によく生涯学習に取り組んだ人を表彰する」(12.8%)、「履歴書に学歴以外の「学習歴」欄を作る」(15.2%)となっている。

(注3) 平成17年5月調査では、「企業や官公庁の職員採用に当たって評価する」(17.9%)、「企業や官公庁での職員の待遇(給与、昇進など)に反映させる」(12.8%)となっている。

(注4) 平成17年5月調査では、「学校での成績の評価に含める」(12.5%)、「一定の水準以上のものを、大学などの学校の単位として認める」(16.6%)、「大学、高等学校などの入学者選抜の時に評価する」(10.4%)となっている。

図3. 生涯学習の成果の活用状況

(この1年くらいの間に「生涯学習」を「したことがある(小計)」とする者に、複数回答)



(注) 平成17年5月調査では、「日常生活や地域での活動に活かしている」(26.3%)となっている。

図4. 学習成果を自分以外のために生かす必要性

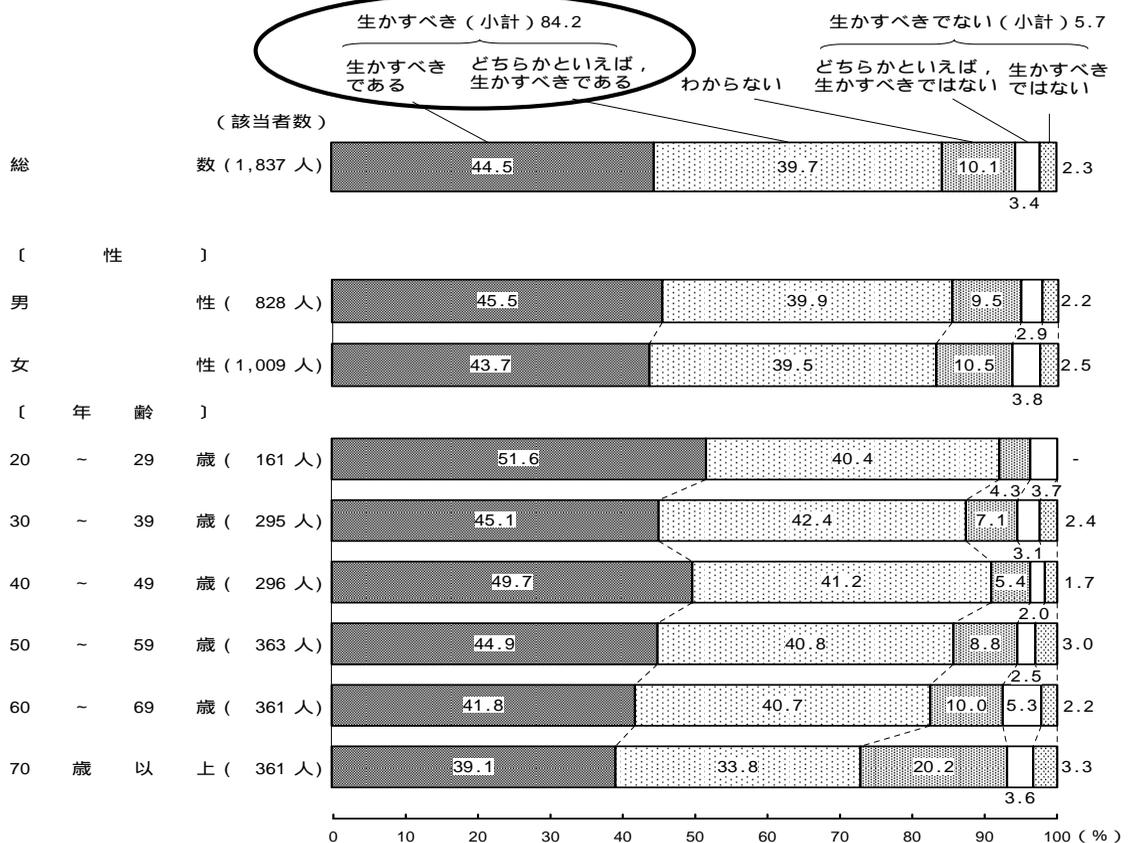


図5. (学習成果活用場として) 地域や社会における教育活動への参加

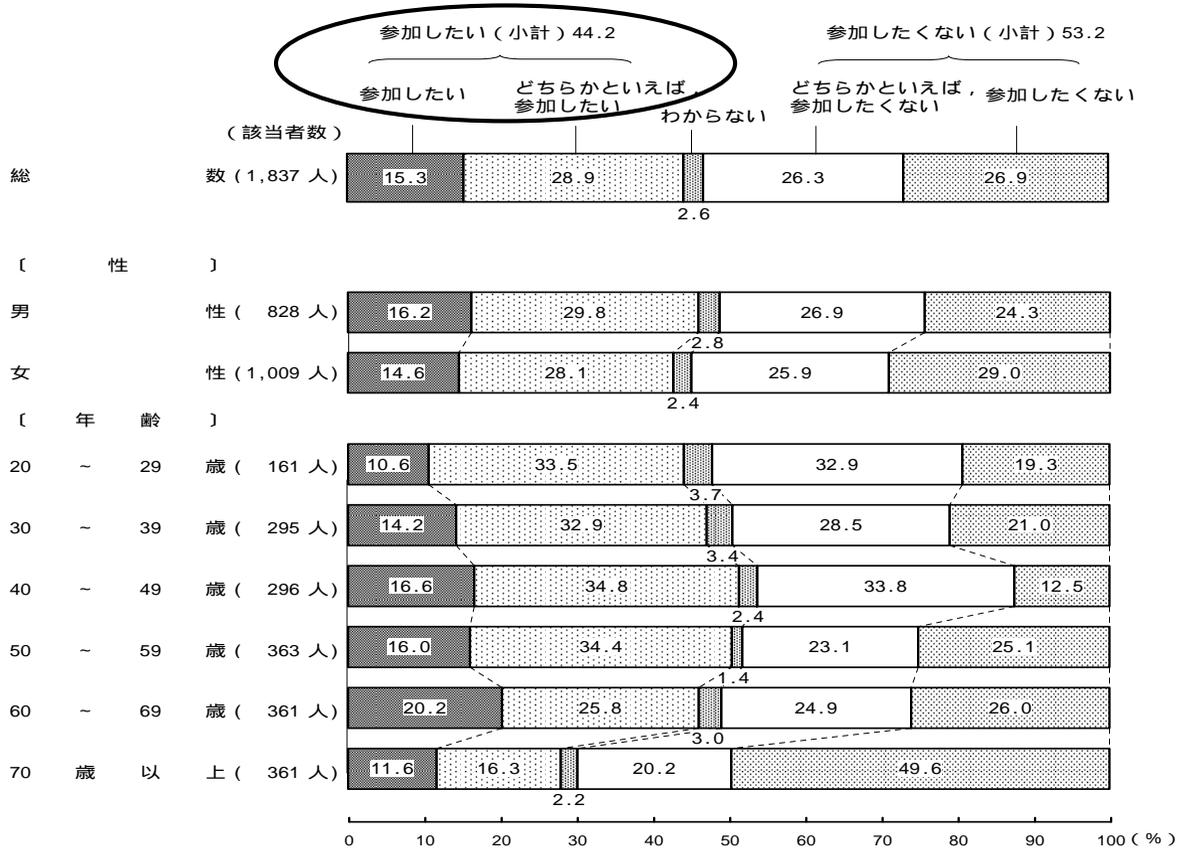
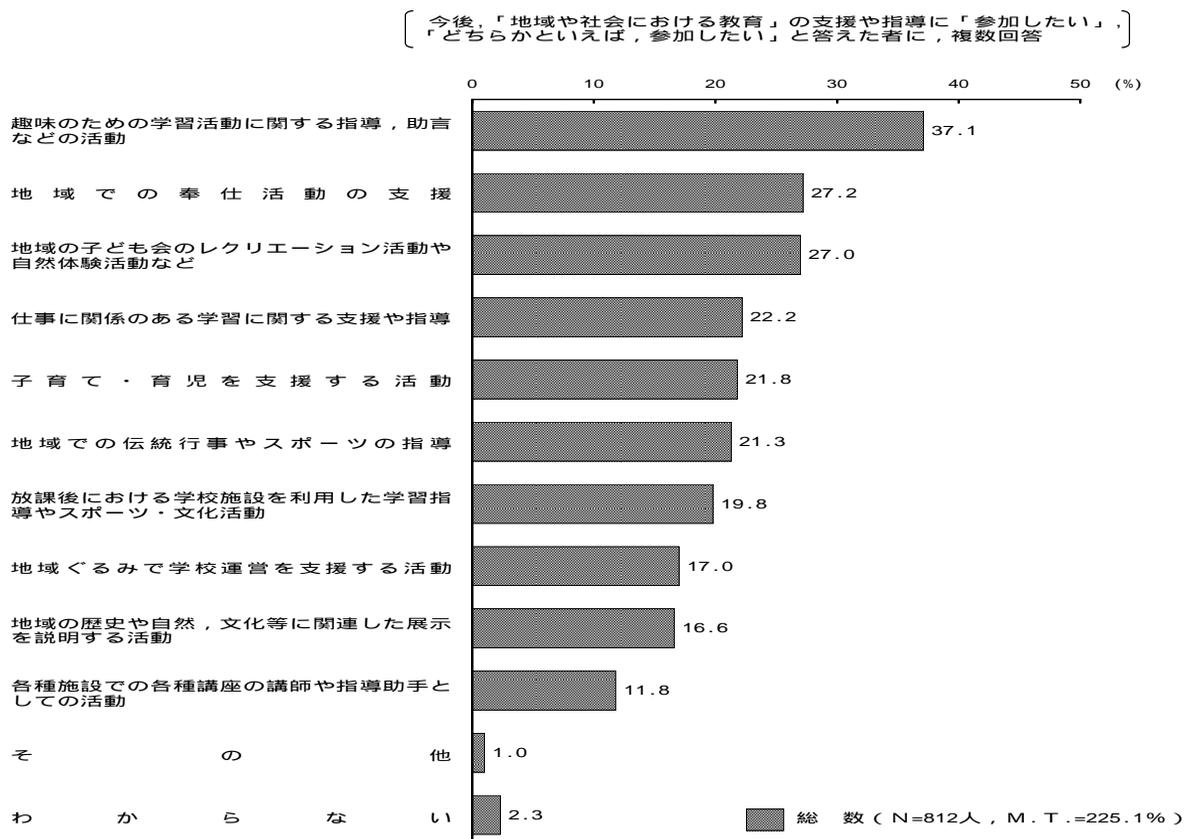
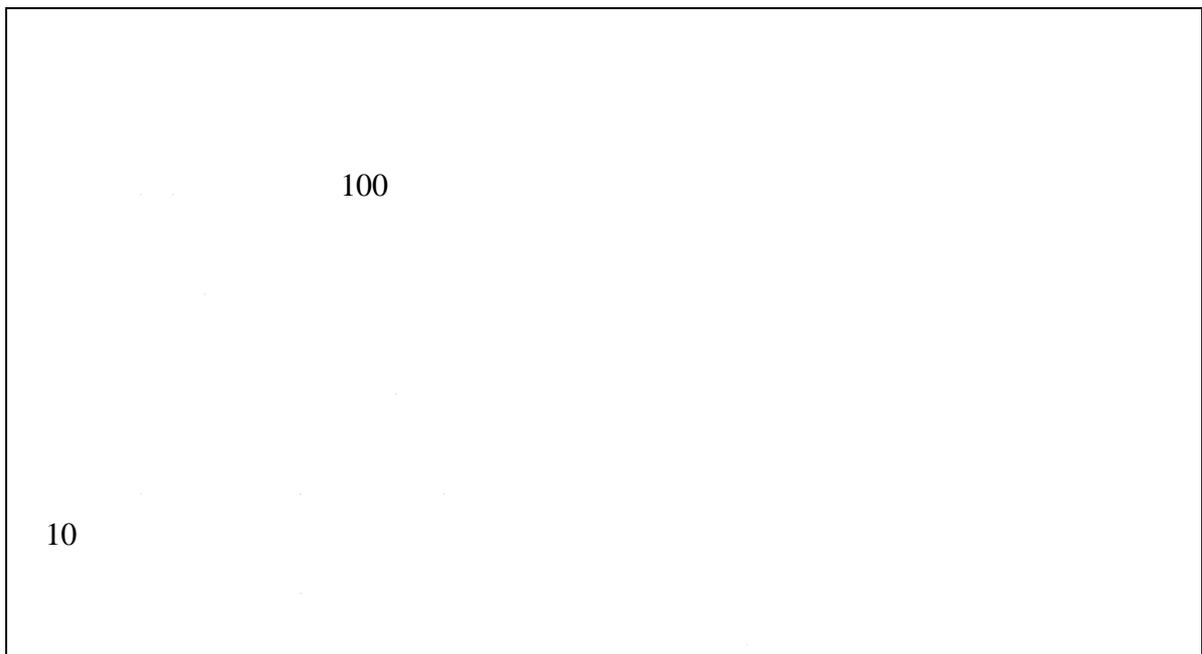
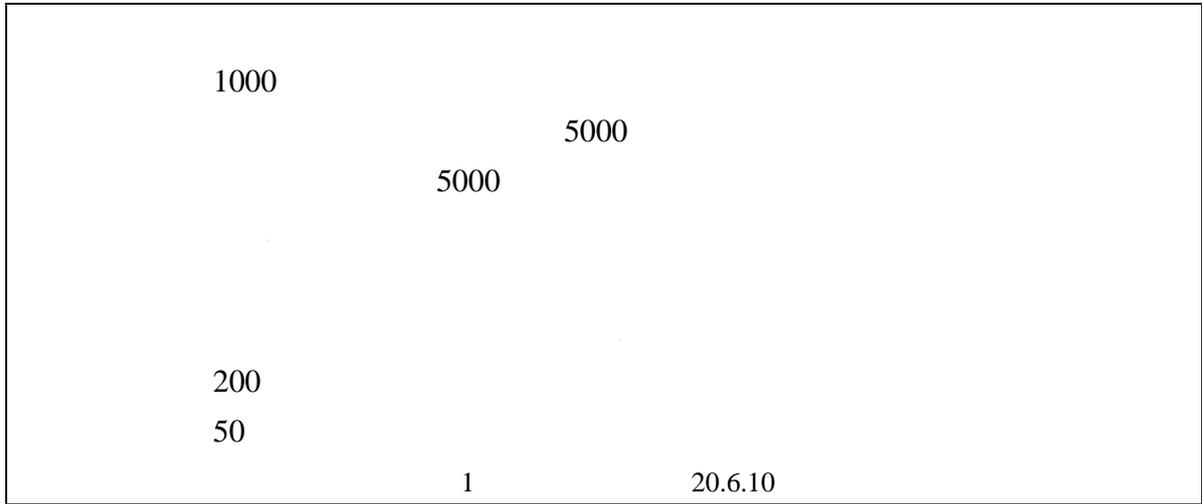
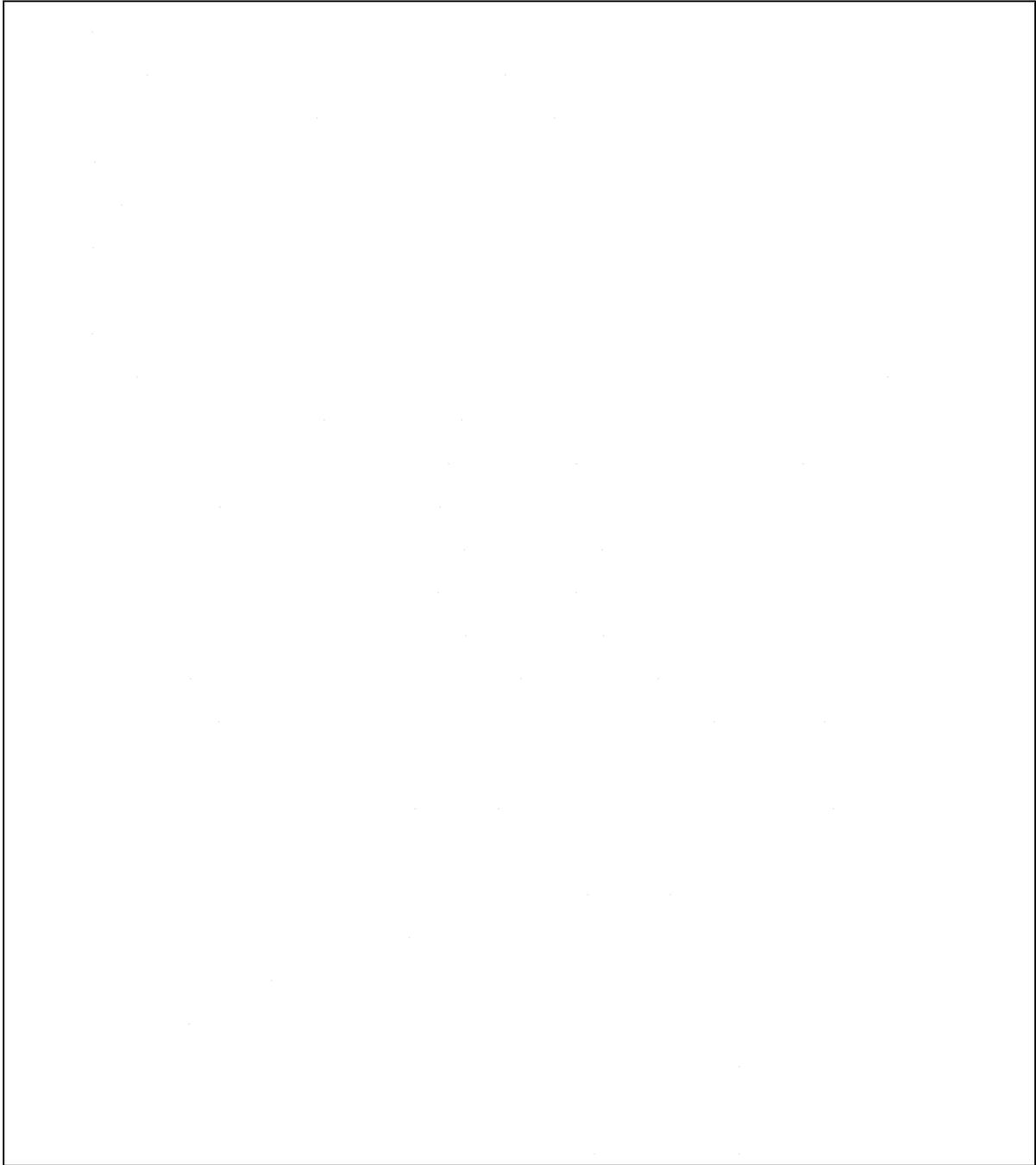
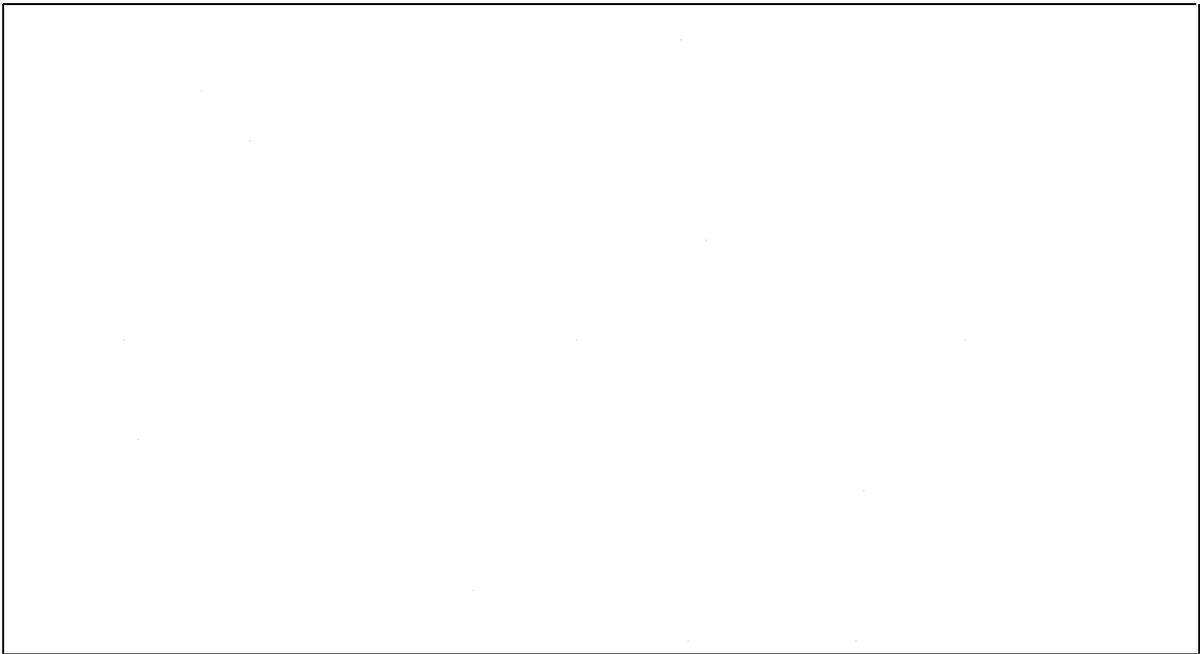
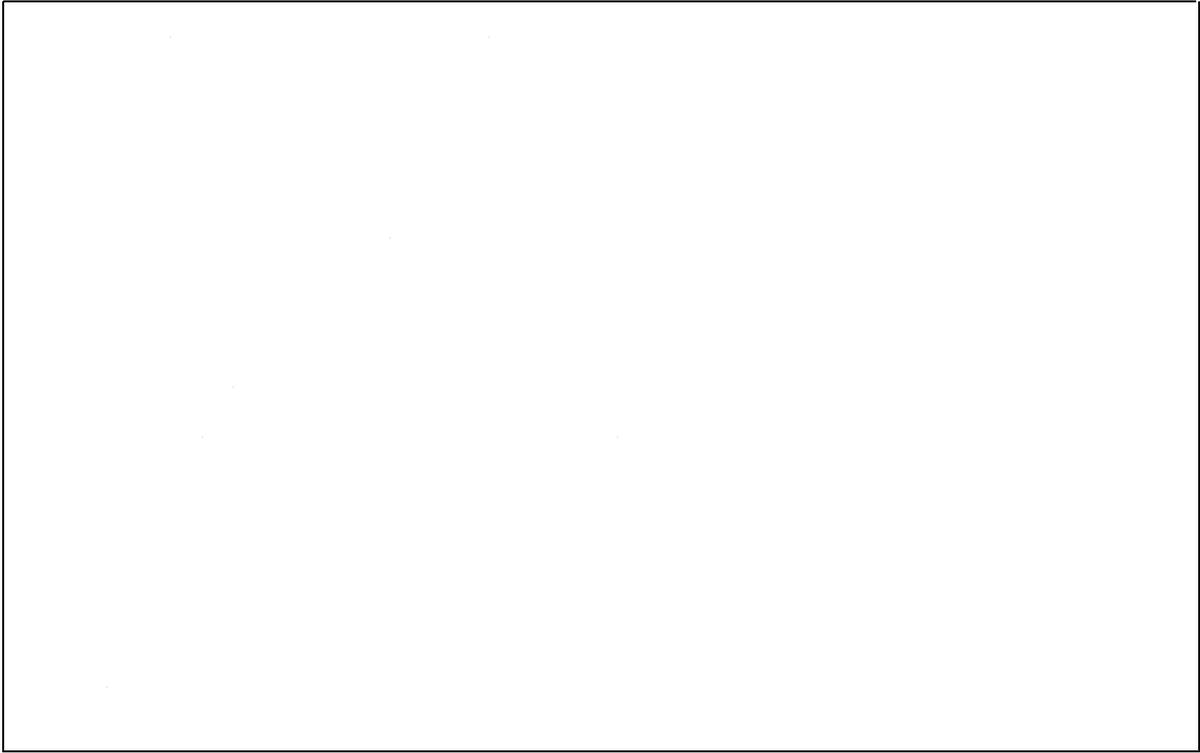


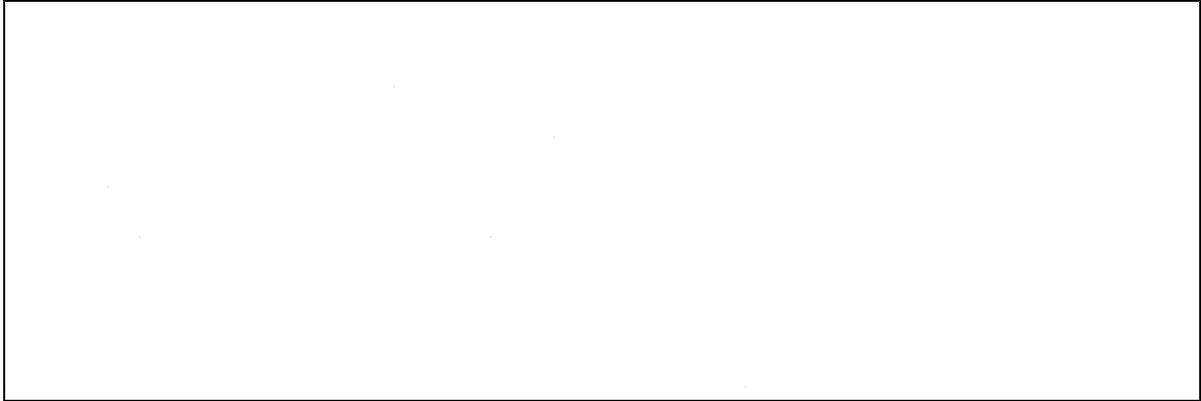
図6. (学習成果活用場として) 参加してみたい地域や社会における教育活動の内容





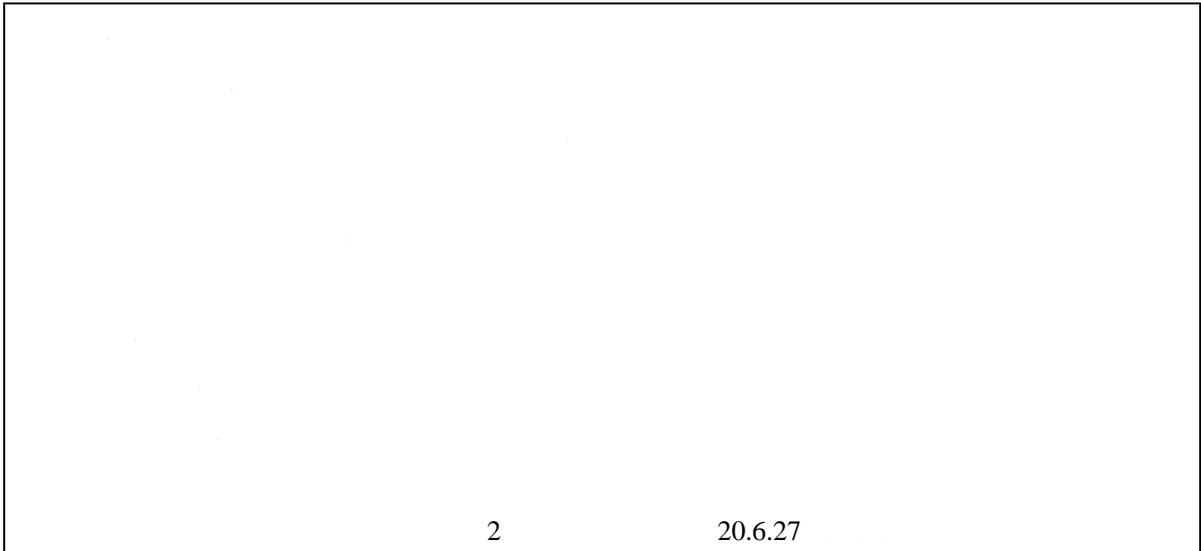
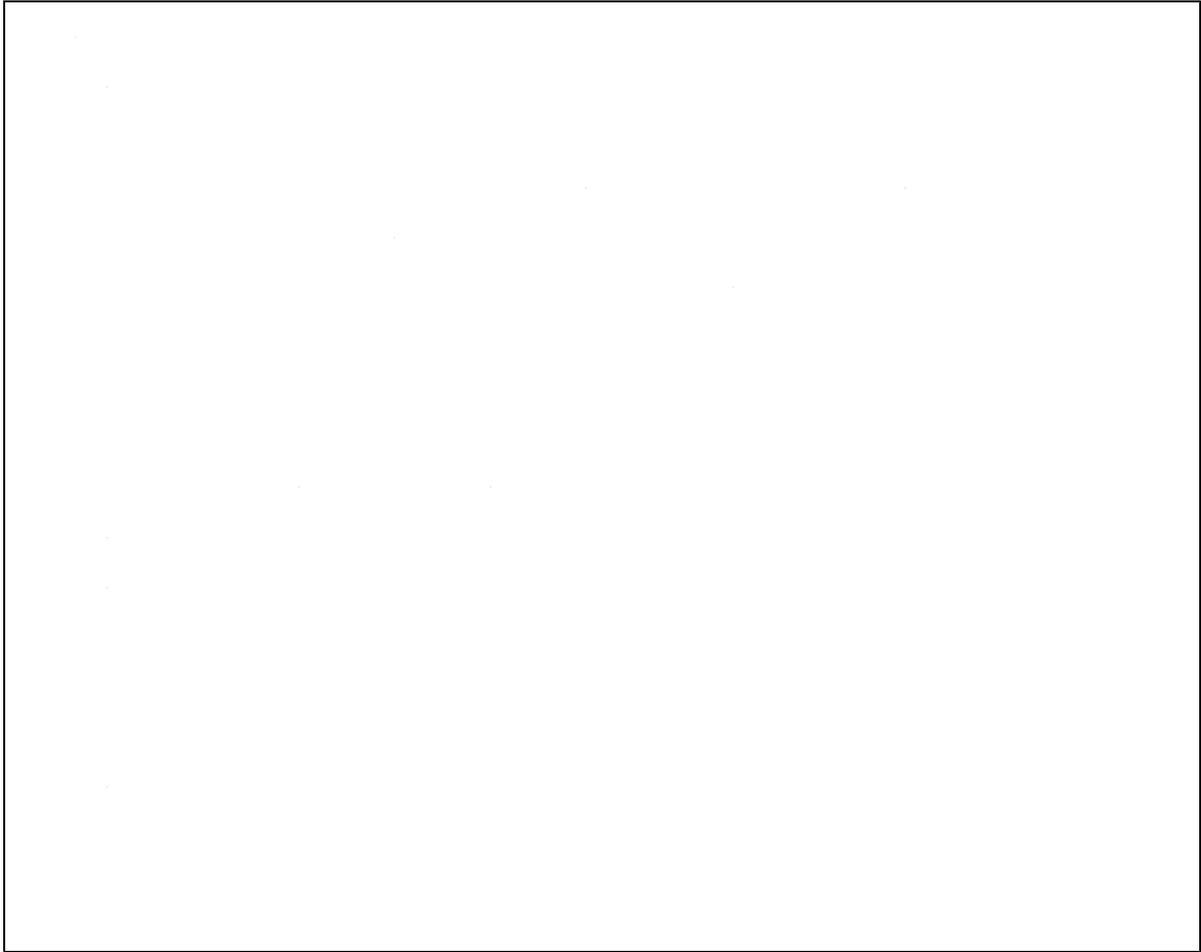






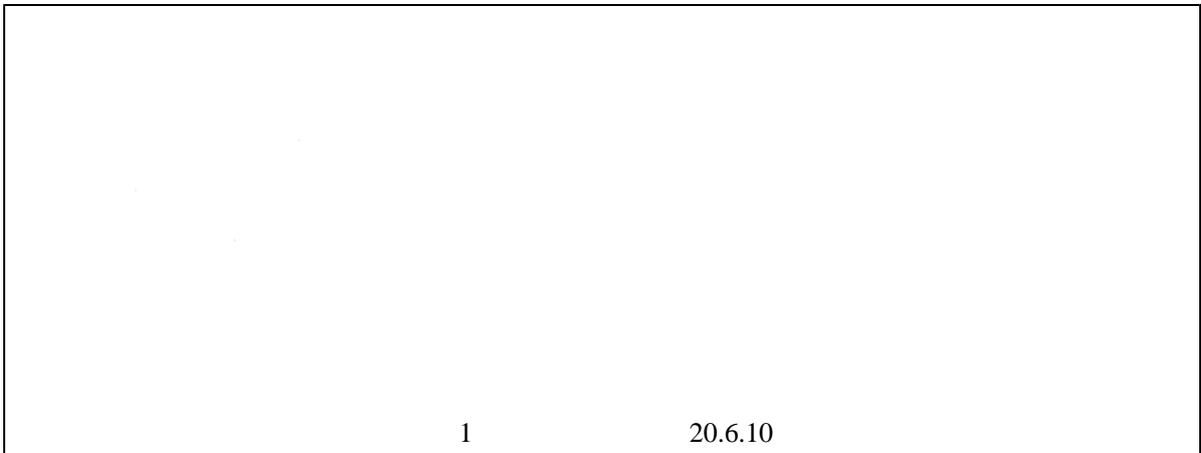
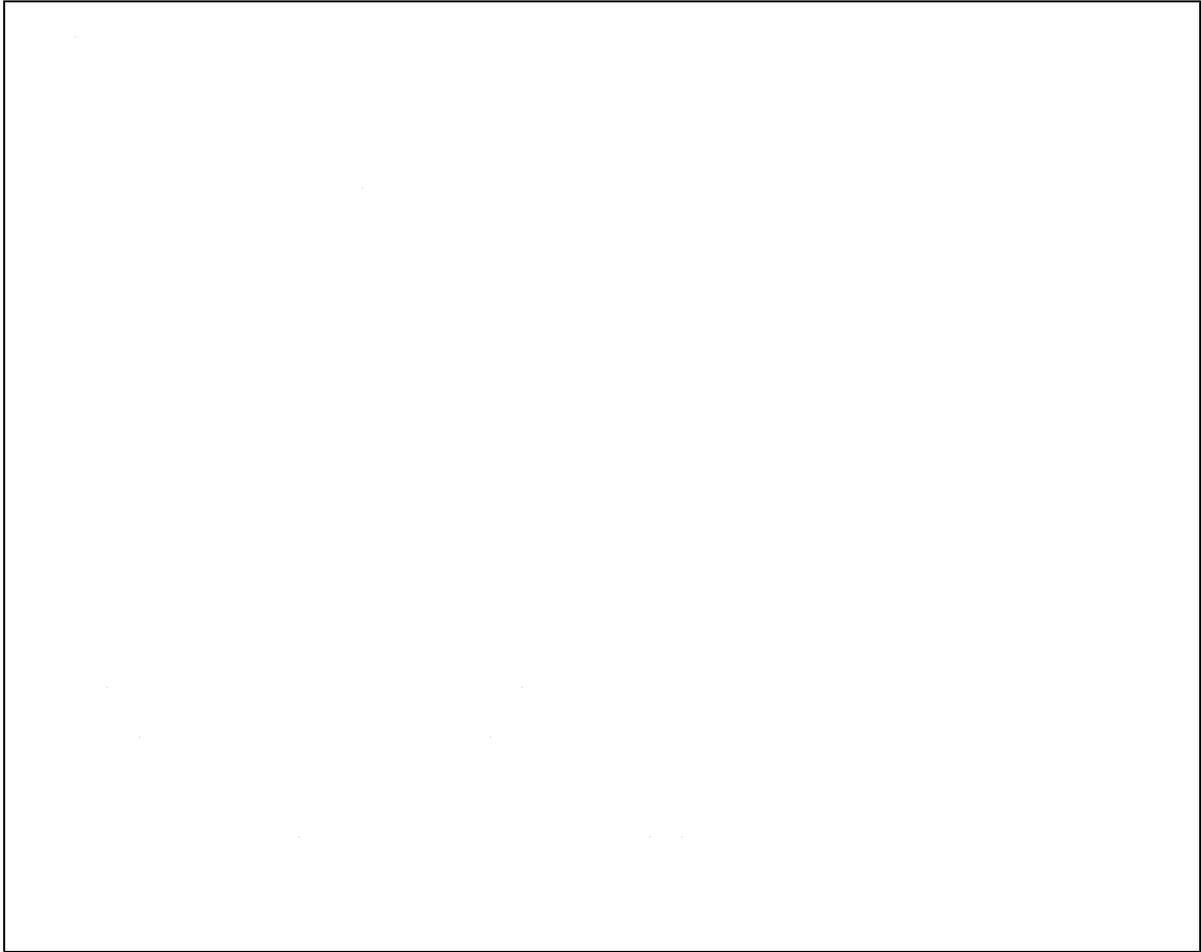
3

20.7.2



2

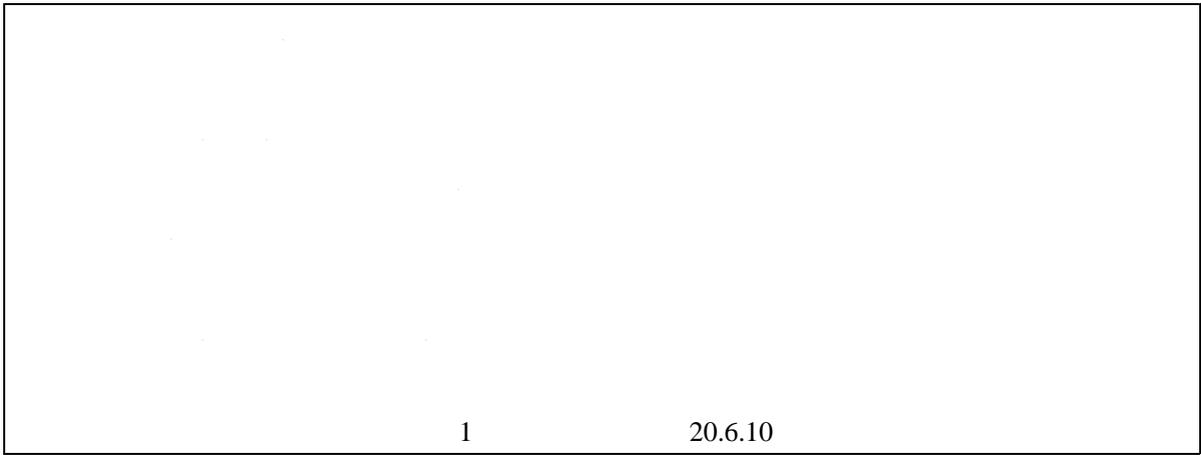
20.6.27



1

20.6.10

20.6.27



| | |
|---|--------|
| 3 | 20.7.2 |
|---|--------|

| | |
|---|---------|
| 2 | 20.6.27 |
|---|---------|

| | |
|---|---------|
| 2 | 20.6.27 |
|---|---------|

